

# 週間市場レポート

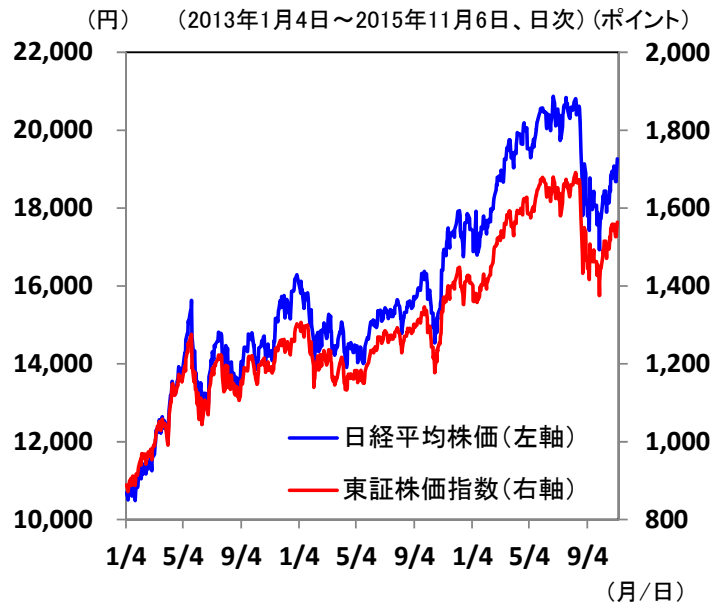
## (2015年11月2日～6日)

### (1) 日本の株式・債券市場

#### 株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は、2日(月)は、日銀が追加金融緩和を見送ったことや冴えない中国経済指標、高値警戒感などから売り優勢となりました。祝日を挟んで、週後半は、郵政3社の同時上場でいずれも初値が公開株価を上回り、その後も上昇したことで買われる展開となりました。また、為替市場での円安も追い風となりました。6日(金)は安倍首相の補正予算や法人税減税に関わる発言、黒田日銀総裁の中国景気への懸念などが伝わると、景気対策や追加金融緩和への思惑が広がり買われました。(週末引け値:19,265.60円)

■週間では、日経平均株価は0.96%の上昇、東証株価指数は0.35%の上昇でした。



出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

#### 債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債金利)は横ばいで推移しました。週初から良好な需給への意識を背景に、日銀の追加緩和への思惑などから買われて底堅く推移しました。ただ国内株高、欧米債券市場の軟調な推移を受けて上値を買う動きは限られました。5日(木)の10年債入札を無難にこなした後は買われる動きもあったものの、6日(金)は米債券安や米雇用統計の発表を控えて売り優勢となり、金利は小幅上昇して引けました。(週末引け値:0.324%)

■週間では、10年国債金利は0.015%の上昇でした。



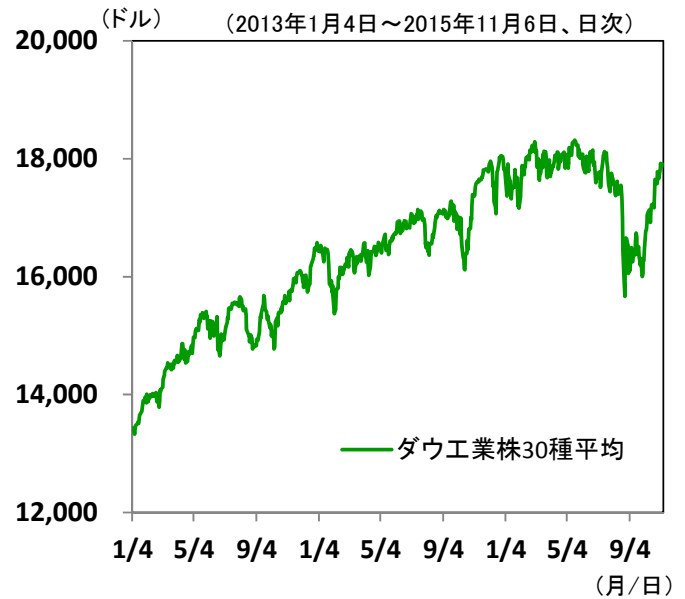
出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は、週前半は、国内企業業績への期待を背景に、原油価格上昇や年内利上げ観測の後退で買いが優勢となりました。週後半は、良好な米経済指標が相次いだことで、米景気回復への期待から買われる一方、年内利上げへの警戒感から売りも出て上値を抑える動きもみられました。6日(金)は、米雇用統計が市場予想を上回り、米経済に対する安心感が広がったことから買いが優勢となり、上昇して引けました。(週末引け値:17,910.33ドル)

■週間ではNYダウは1.40%の上昇となりました。



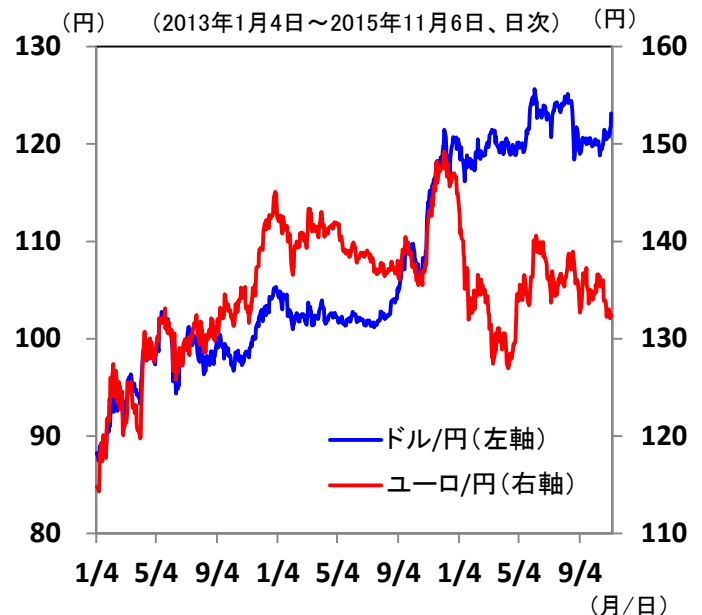
出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■先週のドル円相場は、週初から米株高を受けた米長期金利の上昇から緩やかな円安傾向となりました。週後半にかけても年内利上げ観測などから主要通貨に対してドル買いが継続し、円安が進行しました。6日(金)は、米雇用統計が市場予想を大幅に上回ったことで米金利が上昇し、主要国通貨に対するドル買いが強まって円も売られ、8月下旬以来となる123円台まで円安が進みました。(週末引け値:123円10銭～20銭)

■週間では米ドル円は2.08%の円安、ユーロ円は0.38%の円高となりました。



出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成